

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		薬の事故が圧倒的に多く重大なミスに繋がりがねない状態が問題。 職員一人一人が薬に対しての怖さや知識が少なく作業として業務してしまっている。 チームケアでなく一人で独自のケアをしている職員が多数いる。	重大な事故になる前に未然に事故を防げるようにしていく。	各階ともに薬に関わる際は細心の注意をし業務を行う。 一人ひとりの全ての薬の把握は難しいため、薬の包数は全員が把握できるように薬箱の名前記載のところに薬包数も記載。 独自のケアをしている職員にはその都度声を掛けチームケアを目指していく。	3ヶ月
2		認知症の方への対応が出来ていない。 虐待と言われても否定できないことをしている職員が2~3名いる。 認知症の方への理解が出来ていない職員がいる。 現在でも認知症の方に対しての対応について研修や話し合いをしているが、職員に徹底されない。	認知症について職員全員が理解する。	現在も実施しているが、ミーティング時の研修で認知症について勉強する。 同様に虐待についても研修をしているが職員がどうしたら周知出来るかをリーダーと相談し実行していく。 認知症についての理解や虐待について長年指導してきているため長期にわたって少しずつ改善できるように努めていく。	12ヶ月
3		看取り期に入った際のサービス内容が周知されていない。 本人に寄り添うケアではなく職員本意のケアとなってしまう。	看取りについて理解を深める。	看取りについての研修も実施しているが、もっとわかりやすく説明できるようにする。 今までで看取りをした利用者様を参考にさせていただき職員本意のケアの例をあげて本人の意向に沿ったケアができるようにしていく。	6ヶ月
4		力任せでの移動・移乗をしている。	移乗・移動の方法を覚える	経験数が長く重度の方まで対応してきたことのある2Fリーダーによる実践しながらの研修を個別に行う。	6ヶ月